

## 長岡市農村環境計画の策定を終えて

長岡市は平成の大合併によって、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町、和島村、寺泊町、栃尾市、与板町（いずれも旧）と一緒に人口 28 万人余、総面積約 841km<sup>2</sup> の大きな行政体になった。県の中央部に位置し、旧栃尾市にある守門大岳から旧寺泊町の手濱まで、山岳から海までと広く多様な自然を持った地域を包含している。合併で大きくなった新潟市と同様、併合市町村が農業地帯であることもあって、長岡市も田園型中核都市という性格をもっており、農地面積も 21,000ha を超えている。またそのうちの 90% 以上が水田である。この大長岡市の大半を占める農業地帯の自然環境や景観、さらにはその地域の文化をしっかりと保全、継承し、より良い方向に持って行くことが、今後の長岡市の美しさ、文化の高さ、豊かさにつながるのではないだろうか。

多様な自然や文化をどう守り、また自然を守りながら産業としての農業をどう展開して行ったらよいか、地域ごとの特性に合わせてその指針を示すのが、この農村環境計画である。

まず基本的な考え方がキャッチフレーズで端的に表されているかどうかであるが、今回の長岡市の場合...

悠久のながれとともに 豊かな自然と美しい故郷（ふるさと）づくりを  
～都市と農村が共栄する長岡～

...とした。「悠久のながれとともに」は、時間の流れを指しているようであるが、それとともに長岡市のシンボルともいえる大河信濃川も指しており、「悠久」は長岡市の山のシンボル悠久山から取っている。豊かな自然と美しいふるさとを永く後世に伝えたいという意味になる。また副題の意味は語句の通りであるが、都市と農村はお互いに支え合う存在であり、片方が空疎になれば、その影響はもう片方に伝わる。両者が栄えて初めて地域全体の発展につながるということである。長岡市のイメージをあらわすフレーズになったと思っている。

長岡市は前述のように山間地から海浜までの極めて広い、しかも多様な地域があるが、それぞれの地域特性に合ったエリア分けがなされており、またエリアに合った整備方針が示されている。

平成 21 年正月、佐渡から飛来したトキがしばらく長岡市で餌を採っていたというニュースがあったが、本市はトキ分散飼育地の一つに指定されており、ゆくゆくはトキが自然豊かな本市の上空を舞う日も来るであろう。

今後はこの農村環境計画が広く市民に周知され、豊かな田園環境をもった田園中核都市長岡市が形成されるのを願っている。

平成 21 年 2 月

新潟大学 農学部 教授 三沢眞一

長岡市農村環境計画策定作業の経過

平成 19 年度

時 期	内 容 等
平成 19 年 9 月 21 日、25 日	<p>田んぼ周りの生物現地調査実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中之島地域(六所、興野地区)、長岡地域(滝谷地区)、小国地域(上岩田地区)の 4 箇所で実施</li> </ul>
平成 19 年 11 月 14 日	<p>第 1 回連絡調整会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総論(計画策定の背景と目的、計画の策定手順)</li> <li>・地域内の環境評価：現況調査(地域概要、自然環境)</li> <li>・アンケート調査について(概要、構成など)</li> </ul>
平成 19 年 12 月 19 日	<p>第 1 回策定検討委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長の選出</li> <li>・総論(計画策定の背景と目的、計画の策定手順)</li> <li>・地域内の環境評価：現況調査(地域概要、自然環境)</li> <li>・アンケート調査について(概要、構成など)</li> </ul>
平成 19 年 12 月下旬～平成 20 年 1 月中旬	<p>アンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般成人(1,500 名対象、無作為抽出、郵送配布回収)</li> <li>・中学一年生(488 名対象、12 中学校、直接配布回収)</li> </ul>
平成 20 年 2 月 14 日	<p>第 2 回連絡調整会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の環境評価：現況調査(社会環境、生産環境)、住民意向調査、環境評価</li> <li>・地域の整備計画(上位計画・関連計画の概要、農業・環境に関連する主な施策及び既存の計画)</li> </ul>
平成 20 年 3 月 7 日	<p>第 2 回策定検討委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の環境評価：現況調査(社会環境、生産環境)、住民意向調査、環境評価</li> <li>・地域の整備計画(上位計画・関連計画の概要、農業・環境に関連する主な施策及び既存の計画)</li> </ul>

平成 20 年度

時 期	内 容 等
平成 20 年 9 月 17 日	<p>第 3 回連絡調整会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全の基本方針(基本方針、キャッチフレーズ)</li> <li>・農業農村整備事業における環境への対応方策(環境要素別の保全・整備目標、対応方策・施策)</li> </ul>
平成 20 年 10 月 21 日	<p>第 3 回策定検討委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全の基本方針(基本方針、キャッチフレーズ)</li> <li>・農業農村整備事業における環境への対応方策(環境要素別の保全・整備目標、対応方策・施策)</li> </ul>
平成 20 年 12 月 19 日	<p>第 4 回連絡調整会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村環境整備の展開(広域的整備計画、地域別整備計画)</li> <li>・農村環境計画の推進(枠組みと進め方、推進体制と今後の展望・課題)</li> <li>・農村環境計画書の配布先等について</li> </ul>
平成 21 年 1 月 21 日	<p>第 4 回策定検討委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村環境整備の展開(広域的整備計画、地域別整備計画)</li> <li>・農村環境計画の推進(枠組みと進め方、推進体制と今後の展望・課題)</li> <li>・農村環境計画書の配布先等について</li> </ul>

長岡市農村環境計画策定検討委員会及び連絡調整会議

策定検討委員会 8名 (任期：平成19年度～平成20年度)

氏名	所属等	備考
三沢 眞一	新潟大学農学部 教授	委員長
桑原 眞二	NPO 法人 ながおか生活情報交流ねっと 理事長	
原 定 幸	農業組合法人 越後田舎の親類村	
小野 テイ子	新潟県農村地域生活アドバイザー	
佐藤 勝平	越後ながおか農業協同組合 営農企画課長	
渡辺 篤	福島江土地改良区 事務長	
大宮 禮一	上古志土地改良区 理事長	
桜井 銀一	長岡地域振興局 農林振興部農村計画課 参事・農村計画課長	H19年度 丸山 昭人

(敬称略、順不同)

連絡調整会議 メンバー所属

長岡地域振興局 農林振興部農村計画課

長岡市企画部企画課 総合政策担当

長岡市環境部環境政策課 環境企画担当

長岡市都市整備部都市計画課 都市計画係

長岡市都市整備部公園緑地課 緑化推進係

長岡市土木部道路管理課 管理係

長岡市農林部農政課 農村政策係

長岡市農林部農林整備課 林業係

事務局

長岡市農林部農林整備課 農村環境係(平成19年度は管理係)